

きょうと福祉俱楽部だより

2022年 6号

心身が不自由でも豊かさがある暮らしを目指しませんか？

「寝たきり老人」、嫌な言葉ですね。

身体が不自由になればベッドから離れられないということを指す言葉です。でも、本当は「寝かせきり老人」が正しい表現です。介護が必要な方を人的資源と介護を支援する道具が提供されないが故に寝かせきりになっているのです。

わたしたちが支援してきた人にこんな方がいらっしゃいました。

彼女の名はトヨさん(仮名) (97歳で没)

別事業所からケアプランも訪問介護も移ってこられました。

担当当初はベッドから車椅子に移ることすらままならない状況。

それもそのはず、長い寝かせきりの環境がこの人の残された力を削っていたのです。

そこで抜本的にケアプランを変えました。

いかにベッドから離れることができるかを考えました。

座ることが苦痛だった車椅子は障害者手帳を用いて身体にあったその人用の車椅子を作りました。

車椅子は変わっても、座らせるには重たい身体を車椅子に移し替えなければなりません。

これが介護職員と介護にあたる家族の大きな負担です。

そこで介護保険で利用出来る「移動用リフト」を導入。いつでも、誰でも簡単に移乗が可能になりました。



トヨさんの生活を変えた移動用リフト



そうすると、今度は外出も簡単になります。

そこでまた身体障害者手帳の出番です。

介護保険にはないサービス、「移動支援」(ガイドヘルパー)の申請です。

このサービスは障がいをもつ方の娯楽、余暇活動の支援に利用できます。

それを使ってヘルパーが支援しながら娘さん、ひ孫ちゃん、お孫さんとイズミヤのフードコート。

これでトヨさんに笑顔がよみがえりました。

そして年の暮れには電車に乗って京都駅の巨大クリスマスツリーを見物。

古い平屋の京都駅しか知らなかったトヨさんに驚きの表情。

こんな取り組みを続けていくうちにどんどん力が戻りました。

これらの支援は介護保険等の公的支援だけで組み立てていますから、費用負担も過大なものではありませんでした。

トヨさんの支援は福祉俱楽部のスタッフに「介護とは豊かな生活を取り戻すお手伝い」という事を学ばせてくれました。



新型コロナウイルス感染拡大に伴う 利用者のみなさまへのお願い

●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。

●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉俱楽部までご連絡ください。

有限会社 あとくに福祉研究所
きょうと福祉俱楽部

Tel 617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東館101号
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com